

授業概要

子どもの保健Ⅰで学んだ子どもの健康に纏わる諸問題を各論的に掘り下げて行く。保育所・幼稚園等における日常的な子どもの保育・看護に関する知識を深めながら、食育・発達障害・虐待防止・多文化環境対応等の子育て支援の一環として社会的に関心の高いトピックを取り上げる中で、保育者として子どもの健康にどう関わって行くのかを考える。特にメソシステムレベル、マクロシステムレベルにおける広い視点でのヘルスプロモーションのあり方を評価・考察することで、子ども・子育て支援や地域・職域での健康増進に寄与し得る専門性を養う。

授業計画

第1回	小児保健領域における各指標の動向
第2回	保育所・幼稚園における環境構成(感染防御の視点から)
第3回	保育所・幼稚園における環境構成(事故防止の視点から)
第4回	子どもに見られる病気とその症状・Ⅰ(感染症等)
第5回	子どもに見られる病気とその症状・Ⅱ(慢性疾患等)
第6回	子どもの看護・Ⅰ(発熱・咳嗽・発疹)
第7回	子どもの看護・Ⅱ(頭痛・腹痛・下痢・嘔吐)
第8回	子どもの看護・Ⅲ(創傷・熱傷・誤飲・誤嚥)
第9回	子どもの病気(感染症等)
第10回	感染防御と予防接種
第11回	保健学的視点での子育て支援・Ⅰ(子ども虐待等)
第12回	保健学的視点での子育て支援・Ⅲ(食育・アレルギー等)
第13回	子どもを取りまく環境・Ⅰ(日本)
第14回	子どもを取りまく環境・Ⅱ(世界)
第15回	多様化する保育の現状と少子高齢化社会における母子の健康増進
第16回	定期試験

到達目標

子どもの成長・発達や事故・病気についての知識を深め保育・看護の実践に繋げる方法を知る。多様化する保育や子育て支援の現状等を学んで行く中で、園や地域における健康増進にどう向き合い、何が出来るのかを考察しながら保育者としての本来業務を再認識する。

履修上の注意

授業内の小レポートや、授業外で行う課題を課すことがある。私語を慎みながら、発言・質問等は積極的に行うこと。著しい私語等で授業環境を乱す者については、退出を命じる場合がある。授業内での携帯電話・スマートフォン等の使用は認めない。

予習・復習

予習として配布資料の予告された箇所を授業前までに通読すること。当該テーマのより良い理解のために、授業内で紹介する参考文献や資料による復習をすること。

評価方法

授業内での発言、小レポート、定期試験等から総合的に評価する。

テキスト

松本峰雄・他『子どもの保健演習ブック』ミネルヴァ書房